

「数字」「具体例」「客観的評価」で 地頭の良さを伝える

坂本　そして欠かせないのが、自分の思考能力そのもののアピールです。つまりロジカルシンキングですね。じつはこれが最大のアピールになります。その方法が、「数字」「具体例」「客観的評価」を用いて伝えていくということです。これを意識すれば、たとえばESや履歴書の趣味の欄でも自分の魅力をアピールできます。

——「読書」とか「映画鑑賞」ではダメなんですか？

坂本　同じ読書でも、よりよい説明の仕方があります。それは「どんな本を、どのくらいの頻度で、何冊くらい読んだのか」という数字や具体例、客観的評価を交えて書くことです。以前指導した人に「歴史の本を毎月かならず2冊、大学入学後3年間で72冊読みました」と書いて高評価を得た人がいました。

——ただ「読書」とあるのと、受ける印象がぜんぜん違いますね。

坂本　「読書」が悪いのではなく、その伝え方が大切なんです。

——スキルや経歴がどんなに良くても、伝え方しだいで評価は変わるといえることですね。

坂本　そうですね。スキルを身につけるには長い期間が必要ですが、ロジカルシンキングは話し方のコツを身につければいいだけなので、ほんの1、2日で身につけられます。「数字」「具体例」「客観的評価」。選考ではこれをつねに意識して話します。

——それを意識しているかどうかで、社会人としての素質も見られているわけですね。

アピールポイントがない人でも
アピールできること

- 1 小・中・高の経験
- 2 就活中の努力
- 3 資格の勉強
- 4 ロジカルシンキング

坂本 学生は論理的であることの大切さを知らないのも、文学的表現や面白い表現をして個性を出そうとしてしまいがちです。しかし、**内定者の例を見るとわかりますが、変わった言い回しはしていません。**わかりやすく伝えるために、むしろストレートな言い方で、それを**事例や数字で具体的に書いています。**努力の方向性はこっちにもつていくべきです。

——**つい自分を大きく見せようとしてしまいますが、たとえ些細なことでも、考**
え方や伝え方を少し変えればアピールになるんですね。

坂本 ふつうに学生生活をおくっていたら、すごい経験はなかなかできません。大半の学生はアピールすることに悩んでいるはずですが、でも、それがふつうなんです。

——**それでも、みんな立派に社会人になれていますからね。ちょっと考え方や意識を変えれば、ちゃんと社会人として認めてもらえる。ここに気づけたら、就活の焦りや不安も少し軽くなるかもしれませんね。**

坂本 そうですね。**事前の研究や自己の振り返りなど、小さなことでも手間を惜しまずにちゃんとやる。**それが社会人としていちばん大事なことです。

——**私もいち社会人として気をつけます。本日はありがとうございました。**